

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	コロナ禍で困窮する子どもの学習支援
資金分配団体名:	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
実行団体名:	特定非営利活動法人キッズドア
実施時期:	2020年10月～2021年9月
事業対象地域:	東京都江戸川区・足立区

Version 3.2

日付: 2021年10月14日

事業対象者:	1) 江戸川区の貧困家庭およびコロナで家計が急変した家庭の子ども（中学生～高校生） 2) 足立区および近隣エリアの外国にルーツをもつ子ども（小学生、中学生の学齢）及びその保護者。教育相談支援対象者は教育を受ける本人及びその保護者とする。
--------	---

I. 事業概要

事業実施概要	1) キッズドア無料学習会in江戸川 会場：グリーンパレス江戸川内貸会議室2) 対象：江戸川区在住の中学生、高校生（塾などに通うのが難しいご家庭） 開催日時：毎週月火木曜日 16時30分～20時30分、毎週土曜日 15時～19時 内容：学習支援スタッフ（アルバイト及びボランティア）による学習指導、定期テスト対策、高校受験支援、大学受験支援および体験活動、食事支援 2) 外国にルーツのある子ども及び家庭への支援in足立 足立区および近隣エリアの外国にルーツをもつ子ども（小学生、中学生の学齢）及びその保護者。教育相談支援対象者は教育を受ける本人及びその保護者とする。 会場：キッズドア・リライン（借上物件：足立区竹の塚2-17-15） 対象：外国にルーツを持ち困難な状況にある6～18歳およびその保護者 開催日時：毎週水曜日・土曜日 10時～19時（3部制） 内容：日本語教師資格保持者による日本語指導、日本の学校での勉強（宿題、テスト対策等）のサポート、教育相談その他生活相談
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<江戸川事業> ●課題設定の妥当性 課題として掲げている学習機会の不足については、そのようなニーズのある生徒が参加していることから妥当であったと考える。しかしながら、学習会場から居住地が遠いために参加できない生徒もあり、ニーズへの十分なアウトリーチができなかった。そのことが予定していたリーチ数を下回る結果となった要因として考えられる。 また、当学習会に参加している生徒の多くは居場所としてのニーズのほうが強いというのが所感である。そのため、会話やゲームをする時間を設けるなど、ニーズに沿った施策を実施した。その結果、施策前（～21年4月）に登録した生徒のうち、10回以上参加した生徒の割合が約17%であったのに対して、施策後（21年5月～）は20%となった。 ●想定した対象者にリーチできたか 児童相談所での紹介を通じて、当初想定した対象者へ効果的にリーチできたと考える。 また、児童相談所の相談者以外へのアウトリーチを目的として、学習会場周辺地域にポスティング（チラシ30000部）を実施した。結果として新規2名の登録があった。 <足立事業> ●当初の課題設定の妥当 外国ルーツの未就学児や不登校児童に焦点を当て、どこにも居場所がなかった生徒支援と日本語力向上と合わせ目標を併記した。教育委員会の不登校支援課には、外国ルーツの不登校生徒の情報がほとんど上がってこなかったため、登校支援係からSSWへ本事業をつないで頂いたおかげで、SSWからの問い合わせが8件あった。また、教員向け研修を2回、SSW実習生向け研修を1回実施した。 ●目標設定 「本事業に参加する外国にルーツをもつ子どもうち不登校生徒の50%が学校に戻る。」という目標設定は、当初外国ルーツの生徒の不登校は日本語の取得と関係しているため、言語取得によりある程度の課題は解決できると判断して目標値とした。さらに不登校の原因の多様性からするとこの目標自体が適切ではなかったと言える。 ●居場所支援 コロナ禍でなかなかイベント開催ができなかったが、最終的には完全な感染予防をして体験活動を2本実施することができた。
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	学習機会の不足/格差	<江戸川事業> 江戸川区の困窮家庭の中高生のべ1600人以上が感染予防が徹底した会場で学習会に参加できる（4時間×152回）	毎回の学習会の参加者数	毎回の学習会の参加者数 20人以上	平均参加者数：3.4人 ネット数：76人 のべ数：543人 実施回数：158回	イベントの実施や定期的な生徒個別面談等、新規登録と定着に関わる施策を実施したが、結果として効果が現れたのは事業終了時期となった。 ▼のべ数の内訳 中1：89人 中2：247人 中3：95人 高1：67人 高2：31人 高3：14人
子ども・学生	学習機会の不足/格差	<江戸川事業> 高校受験指導を受け高校に合格する	中学3年生の高校進学率	中学3年生の高校進学率100%	都立高校推薦合格1名、都立高校一般合格3名（受験対策を行なった生徒の100%が合格）	面接練習を行うなど、生徒一人ひとりに合わせたサポートを実施できたと考えている。
子ども・学生	学習機会の不足/格差	<江戸川事業> 子どもの学力低下の不安が解消する。保護者には必要に応じて多文化共生へ通訳を依頼し、保護者の話を正確に聞き取り、不安を解消する。	無料学習会の満足度	無料学習会の満足度 80%以上（子ども、保護者ともに）	▼子どもの総合満足度 88%（少数切り捨て） ▼保護者様の総合満足度 83%（少数切り捨て） 計算法： とても満足＝5点、満足＝4点、普通＝3点、不満＝2点、とても不満＝1点、としたときの最高点（＝5点×回答数）に対する割合	生徒との面談を実施するなど、生徒の不満解消に注力した。保護者から意見を頂戴することもあり、適宜対応した。項目別満足度のうち、【成績への効果】の結果が他項目に対してやや低かった。居場所としてのニーズを考慮し、勉強以外の時間を設けたことが原因として考えられる。 ▼生徒向け満足度アンケート結果（9名回答） 【総合】とても満足＝4名、満足＝5名、普通＝0名、不満＝0名、とても不満＝0名 【居心地】とても満足＝7名、満足＝2名 【サポート】とても満足＝7名、満足＝2名 【成績への効果】とても満足＝1名、満足＝6名、普通＝2名 【講師】とても満足＝7名、満足＝2名 【通いやすさ】とても満足＝2名、満足＝3名、普通＝3名、不満＝1名 ▼保護者向け満足度アンケート結果（6名回答） 【総合】とても満足＝1名、満足＝5名、普通＝0名、不満＝0名、とても不満＝0名 【サポート】とても満足＝3名、満足＝3名 【成績への効果】満足＝4名、普通＝2名 【スタッフの対応】とても満足＝3名、満足＝3名 【通いやすさ】とても満足＝1名、満足＝2名、普通＝3名
子ども・学生	食料関連の不足	<江戸川事業> 子どもが抱える栄養に関する不安が解消する。	食の支援に関する満足度	実施内容に関する質問に対し、80%以上が“満足”と回答	満足度アンケートを実施した。（4名回答） 【総合】とても満足＝3名、満足＝0名、普通＝1名、不満＝0名、とても不満＝0名 【栄養バランスが偏ってるか】（0内は実施前） とてもそう思う＝0名（0名）、そう思う＝1名（0名）どちらでもない＝3名（4名）、そう思わない＝0名（0名）、全くそう思わない＝0名（0名） 【食事に満足しているか】（0内は実施前） とてもそう思う＝0名（0名）、そう思う＝4名（3名）どちらでもない＝0名（1名）、そう思わない＝0名（0名）、全くそう思わない＝0名（0名）	「食事券をもらうために参加する」と宣言する生徒もおり、定着の施策として有効であったと考える。また、僅かではあるが、食量の満足度が向上した生徒がいるため、栄養に関する不安解消にもつながったと考える。
子ども・学生	学習機会の不足/格差	<江戸川事業> 子どもの視野を広げる。将来の選択肢を増やし、勉強へのモチベーションを上げる。	イベントへの参加者数	参加者延べ数が40人	講師のキャリア紹介を実施 参加者延べ数（計）：21人 参加者延べ数（内部実施）：18人 参加者延べ数（外部実施）：3人	講師の話に出たキーワードについて調べる生徒がいるなど、視野を広げるきっかけになったと考える。 目標に至らなかった主な原因として、コロナ感染者数の増加により、外出するイベントを見送ったことがあげられる。 また、代わりとして学習会場内で可能なイベントを実施したが、転換が遅れたことにより、延べ数の目標達成には至らなかった。

外国人・外国にルーツを持つ人	学習機会の不足/格差	<p><足立事業></p> <p>1. 外国にルーツを持つ子どもの日本語能力が向上する。</p>	1-1. 日本語テスト	1-1. 日本語能力が就学できるレベルまでに向上する（各レベルに応じた漢字の獲得）	<p>小学生の漢字習得度ほぼ100%向上した。中学生は、受験の漢字はルビをふり対応したところ、理解度が進み成績がアップした。</p> <p><総学習時間の推移></p> <p>2021年度</p> <p>4月学習時間153時間</p> <p>5月学習時間182時間</p> <p>6月学習時間195時間</p> <p>7月学習時間235時間</p> <p>8月学習時間306時間</p> <p>9月学習時間220時間（コロナ感染対策で閉室3日間）</p> <p>ネット数30人</p> <p>延べ数899人</p> <p>実施回数103回</p>	<p>個別支援計画を策定し、一人ひとりのレベルに合わせ、ガイドラインとなるコース別カリキュラム（ホップ、ステップ、ジャンプ）を作り対応した。きめ細かな学習支援の結果、どの生徒も成績は向上している。</p> <p>ホップからジャンプへ2人</p> <p>ステップからジャンプへ 1人</p> <p>コースの枠を超えるほどの大きな変化はなかったが、保護者会で成績表を持参した8人中3人成績向上した。</p>
外国人・外国にルーツを持つ人	学習機会の不足/格差	<p><足立事業></p> <p>2 不登校、不就学の生徒</p>	2-1. 本事業に参加する外国にルーツをもつ子どもうち不登校生徒の50%が学校に戻る。 2-2. 本事業に参加する外国にルーツもつ子どもの進学数100%。	2-1不登校、不就学の生徒 午前中利用無し。	不登校生徒の在籍は無し。	<p>50%という目標設定は、担当者がケニアで不登校児の就学支援をしていた時に、1,100人以上の不登校児の内、30%以上（300人以上）就学に繋ぐことができたので、日本では50%でくらいできるのではと、目標値を設定した。</p> <p>教育委員会不登校支援課の協力によりSSWとの連携が進んだことは評価できる。また、民間団体の日本語教室を運営する団体などと区内連携を図ることができたが、不登校の情報までは獲得できなかった。</p>
外国人・外国にルーツを持つ人	居場所の不足	<p><足立事業></p> <p>3外国にルーツを持つ子どもの保護者の庭支援について、関係機関と連携し、必要な支援につなげ保護者が学校からの書類を読み、手続きができるなどの自立度を高める。</p>	3-1. 保護者が学校の通知内容、就学及び進学の手続き方法を理解し、自ら手続きを進める。	3-1 保護者会 保護者が学校の通知内容、就学及び進学の手続き方法を理解し、自ら手続きを進める。	<p>保護者相談件数の推移</p> <p>2021</p> <p>4月0件</p> <p>5月29件</p> <p>6月12件</p> <p>7月28件</p> <p>8月22件</p> <p>9月5件</p>	<p>LINE、電話、面接により個別の相談が多かった。保護者会を開催したところ、情報支援や子育ての仲間づくりが求められていることが分かった。保護者からの相談に具体的な解決策を提示することで保護者が学校からの連絡や手続きの内容を理解し自ら対処できた。</p>

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<p><江戸川事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度の江戸川区学習会に通った中学3年生が、全員高校に進学できている。 ・江戸川区の困窮家庭の中高生が2021年度も学習支援を受けられる（江戸川区委託事業または民間助成事業で2021年度も継続できる） <p><足立事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・足立区の外国にルーツをもつ子どもが小学校及び中学校で必要な日本語を習得し、就学・進学している
考察等	<p><江戸川事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度の江戸川区学習会に通った中学3年生が、全員高校に進学できている。 →一人ひとりに手厚いサポートを実施できた。結果として、継続して参加する生徒全員が合格した。 ・江戸川区の困窮家庭の中高生が2021年度も学習支援を受けられる（江戸川区委託事業または民間助成事業で2021年度も継続できる） →2021年度の継続は決まっている。2022年度以降の継続も目指していきたい。 <p><足立事業></p> <p>周辺の小学校、中学校11校中9校を訪問して本事業について説明を行った。近隣に日本語取得のためのモデル校があったことも幸いして、支援内容について連携することができた。初回面談により全ての生徒の日本語学習のレベルを「ホップ、ステップ、ジャンプ」と区分しその子に見合った学習計画を作成した。マンツーマンによる学習支援を徹底することで学習レベルが向上した。また、今年度、高校進学を迎える生徒2名が受験に向けて学習に励んでいる。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
<江戸川事業> E1.学習会スタッフ&ボランティア研修 (随時実施)	計画通り	不登校経験のある生徒も参加していることから、スタッフが『不登校支援勉強会』（主催キッズドア）を受講した。
<江戸川事業> E1.キッズドア学習会in江戸川2020開始	ほぼ計画通り	リーチについては伸び悩んだものの、継続的に参加している生徒の受験合格など、サポートによる結果に課題はなかったと考える。また、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により実施時間を短縮した。
<江戸川事業> E1.キッズドア学習会in江戸川2021開始	ほぼ計画通り	リーチについては、ポスティング等の周知施策により、徐々にではあるが目標に近づきつつある。助成終了後も事業は続くため、更なる周知とサポートに注力していきたい。また、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により実施時間を短縮した。
<江戸川事業> E1.教育費の補助	中止	計画時にニーズのあった生徒が通わなくなったため補助を行うことはなかった。助成終了後も事業は続くため、ニーズが生まれ次第サポートする予定である。
<江戸川事業> E2.食事・食品提供	計画通り	生徒からの反応は良く、栄養補充としても定着の施策としても有効であったと考える。
<江戸川事業> E3.外部イベントへの参加（ワークショップ等）	計画通り	コロナウイルスの感染拡大により、外出するイベントへの参加は中止とした。代わりとして、ウェビナーの受講や学習会のスタッフやボランティアによるキャリア紹介を実施した。
<足立事業> A1.足立日本語学習支援（初級日本語・やさしい日本語で教科学習）	計画通り	日本語学習支援については、初回面接により個別支援計画を作成し、マンツーマンによる学習支援を実施したことにより、日本語取得が進んだ。
<足立事業> A1.学習教材の開発（漢字のルビ振り、動画教材作成）	中止	学習教材の開発、特に教科書へのルビふりは、需要と供給バランスが取れず、開発コストがかかることで中止とした。今後、デジタル教科書の普及によりルビふりは解決できる。
<足立事業> A1 日本語学習支援者育成研修	計画通り	支援者向け研修は、オリエンテーションにより子ども対応について、臨床心理士による「発達障害」についての研修、随時、日本語教師の資格を有する職員による定期的な研修を実施した。
<足立事業> A2.生活・教育相談支援（学校通知、今後の進路に向けての計画、手続き、授業料免除、生活に関しての相談に応じる）	計画通り	保護者からの相談があれば随時個別に対応したため、ほぼ保護者が内容を理解して自分で対応できた。例えば、通知表の見方と内容の確認、就学援助申請書の記入の仕方が分からないケースは、記入の補助、学校のメーリングリストへの登録ができないケースは、学校から配布された資料を見ながら、一緒にスマホ操作を行った。
<足立事業> A2.食事・食品提供	遅延あり	コロナ禍のためおやつ程度の食品および土曜日の居場所時間の際に、おにぎり程度を提供した。調理を伴うイベントは実施できなかった。
<足立事業> A3.外部イベントへの参加（ワークショップ）	遅延あり	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年12月 Amazonクリスマス会に招待いただいた。 ・足立区中央図書館との連携イベント（無料）図書館ボランティアに「読み聞かせ」をしていただいた。 ・文教大学ボランティアサークルとの交流イベント（竹ノ塚学習センターでのレクリエーション活動）模造紙お絵かき大会 卵の殻でアート うちわ作り 風鈴づくりをした。（材料費は本事業から支出） ・群馬県の椎茸栽培農家とオンラインで結び、事前に送っていただいた栽培キットから椎茸を収穫した。（キット代金は本事業から支出） ・本物のミュージカルを観よう！劇団四季「アラジン」鑑賞（チケット、交通費は本事業から支出）

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p><江戸川事業> 特になし</p> <p><足立事業> 大学連携および地域で活動する外国ルーツの子どもへの学習支援団体やグループとの連携。</p>
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p><江戸川事業> 頻繁に参加する生徒の特長として、①保護者の意向が強い、②新たな居場所として利用している、の2点が上げられる。 ①の生徒については、当初想定していた学習機会の格差や不足解決に着手できていると感じる。 ②の生徒については、新たなニーズとして捉え、今後の活動の検討材料とした。</p> <p><足立事業> 足立区の外国人登録者数は令和3年10月末で33,138人と年々増加傾向にあり、児童生徒総数に占める割合は4%、25人に一人の割合である。外国ルーツの子どもの学習支援を学校で行う96時間以外にも本事業を通して行うことで、子どもの日本語理解度がより向上した。子どもの成績が上がる、忘れ物をしなくなり学校が楽しくなる、友達とのコミュニケーションが以前より円滑になるなど成果がでている。 また、区内には主に大人向けにやさしい日本語で日本語を教えるボランティア教室が16か所あり、行政文書も多言語化が進んでいる。だが、本事業の保護者支援で見えてきたことは、「日本語と学校での友人関係」に不安を抱えている保護者がほとんどであった。保護者支援については、それぞれの文化の違いはあるが、日本での暮らしの困りごとが共通点となるため、そこに焦点を当て支援を行ったところ、不安への改善が見られた。今後、情報格差是正や子育てに役立つコンテンツの開発も行っていく予定である。</p>
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
<足立事業> コネクترلック（外国ルーツ）	足立区内の外国にルーツのある学習支援に取り組む団体の横の連携。区内マップ作成予定。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	11,771,300	7,588,141	64.5%
	管理的経費	1,228,700	575,630	46.8%
合計		13,000,000	8,163,771	62.8%

補足説明	<p>・2021年4月以降、足立区の委託事業を並行して実施したため、「家賃」「人件費」「備品」「消耗品」等の委託費との重複分は助成金の返還とした。</p> <p>・その他、コロナ禍による活動の縮小やオンライン化などで「会場費」「講師謝礼」「会議費」の執行が想定を下回った。</p>
------	--

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	<江戸川事業> エフエム江戸川 (ラジオ、学習会担当者の出演にて宣伝) MAPS (WEB、記事広告の掲載)
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	<江戸川事業> 宣伝用のチラシを製作 (A4: 31600部、A3: 100部)
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	<江戸川事業> 上記チラシへの掲載
4.報告書等	特になし

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類: 定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	一部未公開	○就業規則 ○給与規程 ○倫理規程 ○通報制度 ○腐敗汚職防止規程等を未公開としている。公開の方向で検討中。
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査 <input type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	実施予定
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	はい	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	